

## 北海道ヒグマ保護管理計画の総括（案）

## 1 目標に対する達成状況

目 標	評価指標
①人身被害発生を可能な限り抑制	人身被害発生状況 〔 件数のみではなく、発生時の状況や原因（有害性の高い問題個体によるもの、入林時の注意事項を守らない行動による偶発的なものなど）、発生の場所（市街地やその周辺、山野など）に基づく評価も行う。 〕
達成状況	状況等
【未達成】	H26：5件（死亡1名、負傷4名） 活動別：山菜・キノコ採り2件、散歩1件、山林作業2件 主な原因：有害性が高い1件、ルール回避可能2件、冬眠穴攪乱2件 H27：0件（20年ぶりに人身被害がなかった。） H28：1件（負傷1名） 活動別：山林作業、主な原因：ルール回避可能
今後の必要な取組	事故の検証結果の公表、注意喚起

目 標	評価指標
②人里出没及び農業被害を現状より減少	問題個体数及び農業被害発生状況 〔 問題個体の出現頻度は、あつれきの程度の指標となることから、出没情報に基づき問題個体数を推定する。また、被害件数や被害金額など農業被害発生状況などについても活用する。 〕
達成状況	状況等
【未達成】	問題個体数推計：渡島半島地域(段階 2,3) H25：122 個体、H26：106 個体 数値は暫定値である。また、渡島半島以外は推定ができていない。 農業被害額：H25；93 千円、H26：128 千円、H27：169 千円 許可捕獲数：H25：581 頭、H26：596 頭、H27：660 頭、H28 暫定 578 頭 農業被害は増加しており、許可捕獲数も増加傾向にある。
今後の必要な取組	問題個体数の推定手法の確立、全道展開 電気柵の導入促進

目 標	評価指標																								
③絶滅危惧水準以下にしない（LP 以外） 現状より顕著に減らさない（LP）	推定個体数又はその増加傾向 〔 各種モニタリング結果に基づき、個体数及びその増減傾向を推定することで判断する。 〕																								
達成状況	状況等																								
【達成】	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H2</th> <th>H24</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>渡島半島</td> <td>1,100±200</td> <td>1,400±600</td> <td>1,700±900</td> </tr> <tr> <td>道東・宗谷</td> <td>2,300±1,000</td> <td>4,200±2,800</td> <td>3,800±2,800</td> </tr> <tr> <td>日高・夕張</td> <td>1,800±700</td> <td>3,300±1,900</td> <td>3,400±2,200</td> </tr> <tr> <td>積丹・恵庭（LP）</td> <td>300±200</td> <td>800±600</td> <td>800±700</td> </tr> <tr> <td>天塩・増毛（LP）</td> <td>300±200</td> <td>1,000±700</td> <td>900±700</td> </tr> </tbody> </table> <p>これまでに蓄積された科学的データを用いた計算機実験を行い、ヒグマの生息数を推定した。穏やかな増加傾向にあり、顕著な減少は見られない。</p>		H2	H24	H26	渡島半島	1,100±200	1,400±600	1,700±900	道東・宗谷	2,300±1,000	4,200±2,800	3,800±2,800	日高・夕張	1,800±700	3,300±1,900	3,400±2,200	積丹・恵庭（LP）	300±200	800±600	800±700	天塩・増毛（LP）	300±200	1,000±700	900±700
	H2	H24	H26																						
渡島半島	1,100±200	1,400±600	1,700±900																						
道東・宗谷	2,300±1,000	4,200±2,800	3,800±2,800																						
日高・夕張	1,800±700	3,300±1,900	3,400±2,200																						
積丹・恵庭（LP）	300±200	800±600	800±700																						
天塩・増毛（LP）	300±200	1,000±700	900±700																						
今後の必要な取組	総捕獲数管理の適正管理																								

## 2 主な取組の実施状況

防除対策と普及啓発の推進
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ヒグマ注意特別期間の設定 春・秋の2回設定し、リーフレットの配布や各種広報媒体での注意喚起、巡視活動の強化</li><li>◆堅果類結実状況調査 秋の主要な食物4種（ミズナラ、ブナ、ヤマブドウ、サルナシ）の実なりの豊凶状況の調査実施 H26：例年より極端に増えるおそれは高くない。H27：地域によって例年より増えるおそれあり。 H28；地域によって出没が例年より多くなる可能性あり。</li><li>◆出没情報の周知 出没情報を公表している市町村 web ページへのリンク集を道 HP に設置（58 市町村）</li><li>◆冬期間の事故防止対策 H27 年 2 月の人身事故発生を踏まえ、冬期間の出没情報を収集し、関係機関で情報共有</li><li>◆電気柵の導入促進 研修会にて効果的な設置方法の実演解説を行うなど、電気柵の導入促進</li></ul>
出没個体の有害性に応じた対応
<ul style="list-style-type: none"><li>◆4 段階の判断基準と対応方針 地域協議会等で本方策の趣旨の周知に努めた。H27 からヒグマ捕獲票に判断フローを掲示し、許可捕獲時の有害性の判断の有無及び判断結果の記載するよう求めた。</li></ul>
地域個体群の管理
<ul style="list-style-type: none"><li>◆総捕獲数管理 渡島半島地域において H22～26 の 5 年間上限捕獲頭数を設定した結果は、メスは上限以内、全体ではわずかに上回る結果であった。</li><li>◆生息数の推定 科学的データに基づく全道のヒグマ生息数（平成 2～ 24 年度）を推定し、H27.2 に公表</li></ul>
地域の危機管理体制の構築
<ul style="list-style-type: none"><li>◆振興局ヒグマ地域協議会 全ての振興局で設置</li><li>◆狩猟者の増加対策 狩猟フォーラム（H26：2 回 221 名）、狩猟免許出前教室（H26：9 回 174 名 H27：10 回 167 名）</li><li>◆ヒグマ対策技術者育成のための捕獲 H17 から渡島半島地域で実施。平成 28 年から全道対象（H28：20 市町村で実施、参加延べ 868 名）</li><li>◆ヒグマ保護管理人材の育成 市町村・振興局の担当者を対象とする研修会の開催（H27：6 回 127 名 H28：1 回 25 名）</li><li>◆ヒグマ保護管理体制実態調査 道内市町村アンケート調査、道外実態調査の実施</li></ul>
調査研究及びモニタリング
<ul style="list-style-type: none"><li>◆個体数指数の動向調査、捕獲個体分析調査 捕獲個体試料の回収、ヘア・トラップ調査（H26 富良野市）、広域痕跡調査、捕獲情報の収集</li><li>◆問題個体の動向調査 ヒグマの出没情報及び被害発生状況の情報の収集</li><li>◆生息環境調査 堅果類結実状況調査</li><li>◆意識調査 道民意識調査（H28）「人とヒグマの共存について」</li><li>◆人身被害情報収集 関係者への聞き取り及び現地調査の実施</li></ul>